

2021年6月吉日

写) 登録販売店 各位

需要家 各位

千葉北部生コンクリート協同組合



暑中期における生コンクリートの出荷について

近年、地球温暖化により、千葉県下においては、最高気温が35℃以上の猛暑日が多くなってきており、工場出荷時のコンクリート温度が35℃未満であったとしても、この影響と運搬中の直射日光やセメントの水和反応による発熱の影響を受け、現場荷卸し時には35℃を超える可能性が非常に高くなってきております。

弊協組の加盟工場では、コンクリートの荷卸し時の上限温度を「38℃以下」として、社内規定の改定を行い、かつJIS認証機関の承認を受け出荷できる体制を整えています。

しかしながら、現場受入基準が「35℃以下」と指定されている場合、荷卸し時のコンクリート温度が35℃を超え38℃以下のJIS適合品であっても現場受入を拒否されることになり、納入現場に対し多大なご迷惑をおかけすることが予想されます。

つきましては、暑中期における生コンクリートの出荷対応につきましては、以下(1)～(3)に示す事項を条件とし対応させて頂きますので宜しくお願い申し上げます。

- (1) 荷卸し時のコンクリート温度35℃以下を指定され、出荷予定日のコンクリート温度が35℃を超えると予想される場合には、出荷をご辞退させて頂きます。
- (2) 上記(1)の条件ながら、どうしても納入を希望され、現場受入検査において、コンクリート温度のみ不適合で持ち帰りを指示された場合には、契約取消生コンとして取扱い、商品代相当額と取消料をご負担頂きます。
- (3) コンクリート温度低減のために追加対策を希望された場合には、この対応可否を含め協議することとし、これに係る費用につきましては需要家様にてご負担頂きたくお願い致します。但し、この対策を講じた場合であっても、コンクリート温度35℃以下を保証するものではありません。

注) 国交省大臣認定品のコンクリート温度規定値につきましては、認定取得時の規定に従わざるを得ず、弊協組加盟の認定取得工場では、コンクリート温度が35℃を超えると予想される場合の出荷対応には応じられませんのでお含み置き下さい。

需要家の皆様には、近年の気象環境の変化をご賢察頂き、ご理解とご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

以上

【参考資料】

■第21回(2021年)生コン技術大会 研究発表論文集(全国生コンクリート工業組合連合会発行)

「20℃および38℃環境下におけるスランプ経時変化および凝結粘性の比較に基づく暑中コンクリートのフレッシュ性判定評価」